暮らしの経済学Ⅰ

科目ナンバリング　PFP-205
選択　　2単位

上田　憲一郎

1. 授業の概要（ねらい）

本講義は、学生の皆さんが社会人となった後、暮らしの中で身近に触れる経済についての基本的な知識を習得し、その概要を理解することを目指します。
また、新聞、ニュース等で報じられる経済の出来事や日本の社会・経済の課題を考え、社会・経済に対する理解を深め、3年次の専門研究の基盤を形成することを目指します。
さらに、経済の基本的な知識を身に着けたのち、資産形成についても考えていきます。

なお、本講義は、経済学部2年生向けの選択科目です。
経済学部1年時に習得した知識をベースとして、2年生向けに今後の経済学部における研究に必要と考えられる内容を中心に授業を進めます。

＊必要に応じて、外部の有識者の講演を行うことを予定しています。
＊授業の理解を促進するため、必要に応じて授業内で動画の視聴などを行うことがあります。

◆本講義は対面を基本としますが、受講者数や授業の進捗度合い、新型コロナ感染症の状況などにより、2～3回程度をLMS授業とする場合があります。
（第14回目の授業はLMS授業となります）。
◆新型コロナ感染症の状況や授業の進捗状況等により、授業内容や項目、授業の実施形態が大幅に変更となる場合があります。

◎本講義は経営学科ディプロマポリシー2「企業経営の場で生起する実践的課題に対処できる専門的な知識・スキルと態度を有する」と関連しています。

2. 授業の到達目標

暮らしの中で日常的に触れる経済の基本的知識の習得と理解を目標とし、さまざまな社会・経済事象について主体的に考えることができることを目標とします。
これは、将来、企業に就職した際、企業などの経営において適切に他者と協力して目標を達成する能力・態度を身につけると同時に、他者を理解するために必要な基本的な教養を身につけ、
他者と共有することができることにつながります。

3. 成績評価の方法および基準

期末テスト50～70%
中間テスト20～40%
講義の中での課題、確認テスト、リアクションペーパー等10～30%程度
この他、出席状況や受講態度、講義への貢献などを付加的に評価します。
＊上記の評価を総合した結果、満点の点数の60%以上を得点した学生に対して、単位を付与します。
（履修者数や受講状況を勘案の上、評価方法や比率を見直すことがあります）。

なお、出席状況（＊）や受講態度が不芳な学生（＊＊）は、授業放棄と見なし、成績評価の対象外としますので、十分に認識してください。
＊6回以上の欠席者は、授業放棄と見なし、成績評価の対象外とします。（30分以上の遅刻、授業終了時刻30分以上前の早退は欠席扱いとします）。
履修者は各自で出欠の回数をしっかりと認識してください。
＊＊受講態度の不芳な学生にはその場で退席を命じます。
退席となった学生は、成績評価の対象外とします。救済措置等は一切ありませんので、十分、認識してください。

◆出席システムの不正使用に関しては、厳正に対処します。出席システムの不正使用があった場合は単位取得は認められません。
◆出席システムで「出席」の表示がされていても、当該授業中に出題して当該授業中に回収した課題の提出が無い場合は、当該授業について欠席扱いとし、最終評価から減点します。
◆来社証明書の取り扱いについては、大学の規定通りの取り扱いとします。例外は認めませんので、十分、認識してください。
来社証明書の不正利用があった場合は厳正に対処します（来社証明書の不正利用があった場合は、単位取得は認められません）。
◆公欠扱いとなる欠席等の場合は、必ず、事前に教員に届け出の上、欠席となった授業から1週間以内に届を提出してください。

4. 教科書・参考文献

教科書
テキストは特に指定しない。
参考文献
日本経済新聞、日経ヴェリタス等の経済メディアには進んで目を通してください。

5. 準備学修の内容

日本経済新聞の主要なニュースや、経済教室、やさしい経済学、ゼミナールなどのコラムに興味を持ち、普段から目を通しておくことをお勧めします。

6. その他履修上の注意事項

社会人となった後も、公私ともに経済の動きを理解することは、大切です。
経済の基本を学び、仕事にも生活にも、そして老後資産形成にも活かしていきましょう。
なお、本講義と暮らしの経済学Ⅱは、密接に関連するため、通年での履修を原則とします。
また、上記の成績評価に関する項目を十分、認識の上、履修してください。
◆授業で使用する資料は、前もってLMSに登録します。受講生の皆さんは、事前に閲覧・印刷して予習したうえで、授業に臨んでください。

◆出席システムの不正使用に関しては、厳正に対処します。出席システムの不正使用があった場合は単位取得は認められません。
◆出席システムで「出席」の表示がされていても、当該授業中に出題して当該授業中に回収した課題の提出が無い場合は、当該授業について欠席扱いとし、最終評価から減点します。
◆来社証明書の取り扱いについては、大学の規定通りの取り扱いとします。例外は認めませんので、十分、認識してください。
来社証明書の不正利用があった場合は厳正に対処します（来社証明書の不正利用があった場合は、単位取得は認められません）。
◆公欠扱いとなる欠席等の場合は、必ず、事前に教員に届け出の上、欠席となった授業から1週間以内に届を提出してください。

◆授業に関する重要な連絡事項や注意事項をLMSに掲載することがありますので、随時、LMSをチェックするようにしてください。
連絡事項や注意事項を「見ていなかった」「知らなかった」等の申し出には、一切、対応できませんので、十分、ご注意ください。
◆履修者・学生の皆さんから先生宛に連絡するときは、メールでお願いします。先生のメールアドレスは教員紹介ページに記載されています。

◇なお、新型コロナ感染予防の観点から、教室では、授業及び試験の際に、学籍番号による座席指定を行います。座席指定は学籍番号による表示で行いますので、予め、ご承知ください。
◇履修者数や履修者の理解度の進捗によっては、講義内容を見直すことがあります。
◇新型コロナ感染症の状況次第では、講義内容や項目、授業の実施形態が大幅に変更となる場合があります。

7. 授業内容

【第1回】　イントロダクション、身近な経済の動きから暮らしを考える。
【第2回】　現代日本の社会・経済の課題を考える（1）少子高齢化と年金、医療、介護、社会保障について考える。
【第3回】　現代日本の社会・経済の課題を考える（2）国家財政、予算、税制と国のかたちについて考える。
【第4回】　現代日本の社会・経済の課題を考える（3）企業を取り巻く新しい動き（株主利益第一主義とステークホルダー重視、SDG’s、ESG投資、働き方改革と年金）を考える。
【第5回】　世の中の経済の基本を考える（1）お金とは何か、金融の仕組み、金融の主要プレイヤーについて理解し、金融の課題を考える。
【第6回】　世の中の経済の基本を考える（2）企業とは？株式会社の起源や基本的な仕組みと会社の課題について考える。
【第7回】　世の中の経済の基本を考える（3）税金とは？国債とは？税の仕組みと暮らしの関わりを理解する。
【第8回】　世の中の経済の基本を考える（4）法とは？経済活動の基盤となる契約とは？国際法とは？暮らしと法との関係を理解する。
【第9回】　前半のまとめと中間テスト
【第10回】　資産運用を考える（1）投資と投機…資産運用の基本を理解する。
【第11回】　資産運用を考える（2）リターンとリスク…資産運用の基本を理解する。
【第12回】　資産運用を考える（3）株式とは？債券とは？投資信託とは？…主な運用商品を理解する。

【第13回】　資産運用を考える（4）老後資産形成を考える…ポートフォリオ、リスク管理、分散投資、個人型確定拠出年金（iDeCo）等について理解する。
【第14回】　暮らしと経済についてのトピックス、最近の様々な事象を考える（LMSによる授業）。
【第15回】　講義の総まとめと期末テスト